

全校児童生徒が約2600人、職員数は150人超の大規模小中一貫校に赴任して一ヶ月が経ちました。

20mシャトルランができる程の長さのひな壇を使用する職員集合写真や、通学手段であるバス(約100台)への毎日の児童誘導や乗り込み指導など、日本の学校ではまず体験することのない、大変貴重で、そして毎日が分からないことだらけの怒濤の日々を過ごしています。学校のシステムもようやく少しずつではありますが、理解できるようになり、少し落ちついてきたように感じています。

ここタイ・バンコクでは旧正月であるソンクラーン(水掛祭り)が4月の中旬に行われるため土日をはさみ連休となります。こちらの始業式は、その休み明けに行われるので日本よりも少しゆっくりとした始業式となっています。

先月21日にはかわいい一年生、約400名(11クラス)が入学しました。写真撮影だけでも長時間を要するなど、効率よく動かないと、全くまわらない状態となってしまうため自分の役割をよく理解しておくことが必要不可欠です。



今回は5月6日(金)に行われた「1年生を迎える会」について紹介したいと思います。

本番が30秒でも伸びるとバスなど、その後のスケジュール全てに影響が出てしまうので、時間厳守。各学年、持ち時間を絶対に越えないよう時計との格闘でした。また、こちらの学校でも1年生と6年生が手をつないで入場しますが、大きく違うのがクラス数。11クラスが入場しますので、全員が入場し終わる頃には手が疲れてしまうほどです。「ととろ」の「さんぽ」が3回繰り返されました。

各学年が自分たちの持ち味を生かした「出し物」もお馴染みです。今年の出し物は、2年生:AKB48の「あいたかった」、3年生:遠足で行く「サファリワールド」について、4年生:昨年運動会で踊った「エイサー」、5年生:昨年運動会で行った改良版「1年生へのエール」、6年生:組み体操を1年生に披露し、それぞれが一生懸命に学校の楽しさ、すばらしさを伝えました。小学部だけで2000人近い児童が集まります。各学年の出し物も迫力満点!素晴らしい会となりました。



今年のバンコク日本人学校のテーマは「夢」です。夢をもち、夢を語り、夢に向かって進んでいく。そんな子どもたちを育てていけたらと思っています。そして自分も子どもたちの成長という夢に向かって力の限り頑張っていきたいと思っています。

バンコク日本人学校では、夏季休業中に現地校での職員研修が行われます。この研修はタイの北部・南部・東北部の3箇所の学校を年度ごと順番に訪問し、施設などの見学と、現地子ども達にタイ語で授業をするというものです。今年度は二泊三日の日程で北部のチェンライにある3つの学校を訪問しました。



雲海を眺めながら



斜面に建てられている木造校舎

今回は三日目に訪れた標高千七百メートルの山間部の学校での授業について報告したいと思います。この山間部での授業は希望者のみだったので、教員免許があれば配偶者も一緒に授業ができるということだったので、二度とない機会だと思い参加しました。眼下に雲海を見、常夏の国タイであるにも関わらず肌寒さを感じながらの授業でした。

授業は2年生にということでしたので簡単な日本の挨拶と、紙でできる日本の遊び「こま作り・折り紙（かぶと）」をすることにしました。日本では考えられないことですが、はさみやクレパスなどはクラスの数人しか持っていません。ですから、画用紙や竹ひご、クレパスなどの準備物はすべてこちらで用意をしました。もちろん日本語は通じないのでタイ語で授業を進めましたが、

習い始めた私の拙いタイ語ではおそらくほとんど伝わっていなかったのではないかと思います。しかし、こちらが言うことを一生懸命に理解しようとしてくれる児童達に、こちら



2年生のみんなと記念撮影

あっている姿、また完成したもので遊んでいるときの無邪気な表情など、本当にキラキラと光り輝いていました。

今回、現地子ども達に授業をするという機会を通して、学ぶ意欲と、できたときの子ども達の表情は世界共通のものと実感できた研修となりました。